



Alma Mater

SAPIENTIA

英知大学同窓会会報

第6号 Oct. 10, 1996

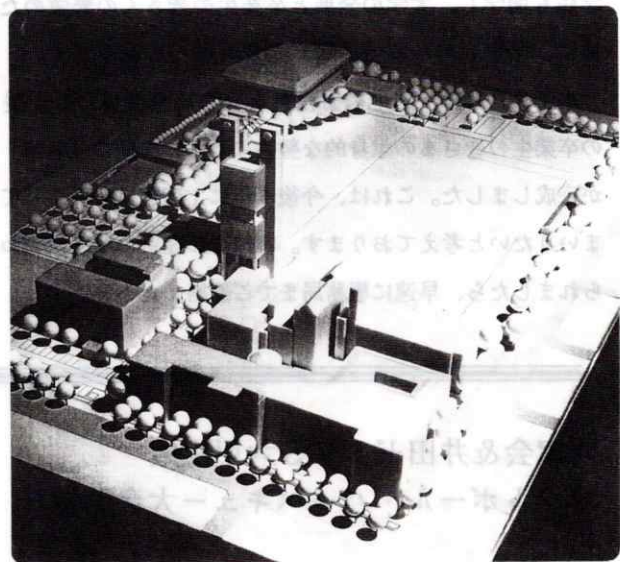
発行：英知大学同窓会
兵庫県尼崎市若王寺2-18-1
TEL.& FAX. (06) 498-6258
発行責任者：野村 裕
編集：英知大学同窓会総務委員会

大学キャンパス整備工事始まる！

英知大学では、本年より3ヶ年計画でキャンパス内の景観を整備することになった。これは本学入学志望者へのアプローチであるとともに、本学生にとっても教職員にとってもより良い環境を造る観点から着手された。

本年は、正門からのメインストリートおよび講堂にいたる通路にモザイクブロックを敷きつめ、さらに学生会館西側に交流の場をつくるなどをおこなう。第二期以降の工事では、写真のようなシンボルタワーを建設し本部機構や各センター機能が入ることとなる。本年11月3日のホームカミングデーには、第一期工事分が完成しており、一段と美化された趣を見ることができるとのことである。皆さん11月3日には是非お集まりください。

(編集子)



ようこそ、お帰りなさい！
1996年 ホーム・カミング・デー
11月3日(日) 午後12時

11月1日(金)は「開学記念日」、1日(金)～3日(日)は「大学祭」と例年どおり計画されています。わが同窓会も11月3日(日)恒例の「ホーム・カミング・デー」を下記のとおり実施いたします。昭和51(1976)年と昭和61(1986)年卒業の方をご招待いたします！

記

- 1) 第一部：総会 (12:00～13:00)
第二部：懇親会 (13:00～16:00)
- 2) 会費：2,000円 (招待者は無料)
- 3) 場所：英知大学 <食堂>
- 4) 式典・アトラクションゲーム・模擬店
食事は、焼き肉・パエリア・スバゲッティ！

同期、学科、クラブ、サークル、ゼミなどお友達お誘い合わせのうえ、ご参加ください。

英知大学 オープンキャンパス

開催日時 10月6日・10月13日
(13:00～16:00)

場所 本学キャンパス内

プログラム

- 97年度入試概要の説明
- ミニ講座
- 学科紹介コーナー
- 個別入試相談コーナー
- 就職コーナー
- 学生生活コーナー
- 在学生の体験談・フリートークコーナー
- 施設の見学
- 喫茶コーナー

入試資料・願書・入試問題集
オリジナルグッズetc.をプレゼント！

同窓会事務局便り

事務局が活動を本格的に再開できるようになって、足掛け2年になります。代行業務のため、事務所を就職部就職課事務室内に設置し、専任アルバイトを置くなど、卒業生各位のお問い合わせやさまざまな交流のお役に立てるように努めてまいりました。最近では、お仕事の合間に、あるいは近くに来たからとわざわざ起こしください、近況をお伝えくださる場合も増えてまいりました。大変ありがたいことと、心より感謝いたしております。

さて、英知大学も創立34年目となり、今春からは大学院も開学し、大学の発展と卒業生の皆さんの繁栄のために、同窓会の一層の活躍が必要となっております。

本年2月には、田中秀樹役員をはじめ全役員とご支援の卒業生の皆さまの献身的な努力により、念願の「名簿」が完成しました。これは、今後4年に1度改訂をいたしてまいりたいと考えております。各位のご住所お電話が変わられましたら、早速に事務局までご連絡ください。

また、例年実施いたしております、在校生への支援活動も定着し、今日ではさらに一層の充実化が必要な状況であります。「留学資金援助金」「クラブ活動奨励金」が、それでありますが、財源の確保が重要であり、会員の皆さんの年会費と新卒業生の入会金に、ご協力を切にお願い申し上げます。

本年も、来る11月3日(日)「ホーム・カミング・デー」を迎えます。昨年は、約200名の方々がご参集くださいました。本年は、300名の動員を目指し、各方面に呼び掛けをいたしております。阪急電車内に10月のオープンキャンパスの吊り広告を出すなど、今までにはない試みが見られます。キャンパスも3年計画で装いを新たにす予定であります。

どうぞ、発展と繁栄に向け、変わりゆく英知を見に同窓生やお友達ご家族お誘い合わせのうえ、再び「お帰り」ください。在校生と教職員一同心よりお待ちしております。今後とも、「英知大学同窓会」に一層のご理解とご支援をお願いいたします。(事務局子)

同窓会&井田ゼミVS六甲出版 ソフトボール・バーベキュー大会開催

7月20日、英知大学に於いて同窓会と井田ゼミの混合チームと六甲出版との間でソフトボール大会が行なわれました。

井田ゼミの現役学生たちは元気でしたが、同窓会の面々は深刻な運動不足。普段、汗をかくことといえば寝汗くらいなもの。試合前の肩慣らしなどの練習で早くもばて気味でした。



バーベキューの準備が出来るまでの間、まず2試合。バーベキューで楽しく会食し、たらふくにお肉やビールをお腹に入れて、かなりごきげん様になっての第3試合。照りつける太陽と、酔いから来る頭痛、ふらふらになりながらの試合でした。勝敗は英知大学チームの2勝1負でした。勝敗はともかく、久しぶりに楽しく体を動かした一日でした。

翌日は立ち上がれないほどの筋肉痛に襲われたことは言うまでもありません。



終身会費・年会費 納入者リスト (8月末現在：敬称略)

終身会費 (30,000円)

1964年 (昭和39年)
宗 野田 治子
1966年 (昭和41年)
宗 皆福 暁子
1967年 (昭和42年)
宗 片山 秀子
神神 山内 幸子
文神 宮崎 康江
1969年 (昭和44年)
文神 太田 和子
1970年 (昭和45年)
文英 伊藤 俊介
文英 渡辺 昌子
文英 椿下 安紀子
文英 岩尾 純枝
文西 蓮池 久志
文西 惟康 さちほ
1971年 (昭和46年)
文英 伊藤 久司
文英 長尾 由明
1973年 (昭和48年)
宗 七田 哲子
文西 岩井 令子
文西 長藤 安男
文仏 小関 文博
1974年 (昭和49年)
宗 長道 須美子
宗 田村 友枝
文神 辻 ヨシエ
文西 高橋 悦子
1975年 (昭和50年)
文神 久志 ハル子
文英 荘司 賀代子
文英 高岡 健二
文英 渡辺 佐美夫
文西 今井 謙之
1976年 (昭和51年)
文英 室谷 久美子
1977年 (昭和52年)
文西 加藤 眞保
1978年 (昭和53年)
文神 三野 りえ子
文神 ルカルツ ヤン
文英 林 佳永子
1979年 (昭和54年)
文英 瀧川 淳子
文英 山野 尚文
文西 井上 眞佐子
1980年 (昭和55年)
文英 三秋 実

文西 須藤 レイコ
1982年 (昭和57年)
文英 松浦 美佐緒
文英 本間 直子
文仏 清水 佳代子
1983年 (昭和58年)
文英 安田 樹男
文西 丸山 豊誠
文仏 曾我部 伸一郎
1984年 (昭和59年)
文神 ガトン・ゴメス
文英 中山 誠
文英 靱 充子
1985年 (昭和60年)
文神 鈴木 和美
文英 野本 昌樹
文西 荒井 伸祐
文仏 大田黒 光彦
文仏 高畑 薫
1986年 (昭和61年)
文英 大前 季子
文英 船木 美香子
1987年 (昭和62年)
文神 池田 雅広
文英 塚越 由佳
文英 櫻井 克子
1988年 (昭和63年)
文神 清原 秀史
文英 福島 裕美
文英 麻植 邦彦
1989年 (平成元年)
文英 岡崎 達也
文西 石光 孝枝
1990年 (平成2年)
文英 宮本 龍一
1991年 (平成3年)
文英 栗山 裕也
1992年 (平成4年)
文西 中村 三千子
文仏 菱田 信也
1993年 (平成5年)
文英 井上 敬子
文英 森谷 恵美
文英 守田 由紀子
文西 新田 修之
1994年 (平成6年)
文英 森川 了吾
文西 小林 はるか
1995年 (平成7年)
文英 大澤 淳子
文西 清水 夕架子

文仏 大庭 朋子
1996年 (平成8年)
文英 脇本 直子
文西 木原 明子
年会費 (3,000円)
1964年 (昭和39年)
宗 八杉 悦子
1966年 (昭和41年)
宗 赤木 公子
宗 江田 紀子
宗 三宅 さつき
1967年 (昭和42年)
宗 神尾 鈴江
宗 黒羽 幸代
1968年 (昭和43年)
文神 来島 益美
文神 安水 決彦
文英 青木 宏
文英 世良 孝子
1969年 (昭和44年)
文神 秋山 昌子
文英 稲垣 紀子
文英 岡本 敦子
1970年 (昭和45年)
宗 牧野 礼子
文神 溝邊 律子
文英 末棟 ミユキ
文英 押見 美耶子
文西 松本 徹夫
文西 西井 陣
文西 壺井 信夫
1971年 (昭和46年)
宗 瀬野 美都恵
文英 湯川 眞知子
文英 藤本 すみ子
文英 吉田 たか子
文英 松下 美千代
文英 田中 マサ子
文英 戸神 繁信
文西 上田 昭子
文西 碓 順治
文西 中村 和徳
文西 野口 宗孝
文西 渡邊 曜一
文西 吉田 徹也
1972年 (昭和47年)
宗 熊谷 ヨシノ
文神 中川 秀子
文英 東郷 眞知子
文西 佐藤 直美
文西 上野 あや子

文仏 岡田 秀啓
1973年 (昭和48年)
宗 脇山 ミネ子
文英 足立 光子
文英 木元 明子
文西 藤本 滝三
文西 湯川 清
文仏 日高 順一郎
1974年 (昭和49年)
宗 北野 希代子
文神 中川 己智子
文英 阪西 恵子
文英 野村 裕
文英 武内 実
文西 大前 令子
文仏 大谷 茂
1975年 (昭和50年)
文英 有吉 雄治
文英 片瀬 千鶴代
文英 松尾 明実
文西 中村 優子
文仏 深瀬 敏行
1976年 (昭和51年)
文神 井上 溶子
文英 片岡 章子
文英 尾上 幹也
文英 橋爪 正行
文英 富田 芳郎
文西 池田 典夫
文西 木藤 直樹
1977年 (昭和52年)
文英 斉木 幸子
文英 大森 義仁
文英 大森 裕子
文仏 坂本 ひとみ
文仏 塚本 実代子
文仏 山本 和人
1978年 (昭和53年)
文英 西田 恵美子
文英 久保内 利恵
文英 王 玲子
文西 江藤 康二
文仏 永森 孝夫
1979年 (昭和54年)
文英 根岸 雅代
文英 山本 伸子
文英 北川 洋子
文英 高橋 光公
文英 中元 一哉
文英 名村 久美子
文英 出田 志乃夫
文西 滝沢 慶子
1980年 (昭和55年)
文神 阿南 慈子

文英 松井 淳
 文英 重谷 幸代
 文英 金谷 由美子
 文英 西脇 初美
 文英 小松 裕美
 文西 和田 隆
 1981年(昭和56年)
 文英 唐尾 藤恵
 文英 松井 珠美代
 文英 森本 茂
 文西 久本 みゆき
 文仏 井上 純子
 文仏 中井 葉子
 1982年(昭和57年)
 文神 秋田 みゑ子
 文英 八嶋 智永子
 文英 住友 紀章
 文英 寺川 京子
 文英 山本 良二
 文英 庄司 一美
 文西 安川 安桂美
 文仏 柳原 正治
 1983年(昭和58年)
 文神 中塚 知子
 文英 羽田 秀岐
 文英 文岡 正美
 文英 杭田 好弘
 文英 大島 弘子
 文西 土井 修也
 文西 西垣 要
 文西 米本 博
 文仏 草野 望
 文仏 草野 隆史
 文仏 中野 久美子
 1984年(昭和59年)
 文神 野村 伸司
 文英 堀川 敏夫
 文西 愛甲 美枝
 文西 大滝 圭介
 文仏 齊藤 昌樹
 文仏 吉成 真由美
 1985年(昭和60年)
 文英 畝崎 亜子
 文英 米吉 利津子
 文西 中出 正子
 文西 澤田 夕生
 文仏 南部 茂
 文仏 梅林 勇一
 1986年(昭和61年)
 文英 藤森 洋子
 文英 岩城 範子
 文英 阿鹿 麻見子
 文英 大滝 明子
 文英 長野 邦子

文西 楠川 知子
 文西 松山 祐美子
 1987年(昭和62年)
 文英 高島 秀行
 文英 岸 紀宏
 文西 潮崎 敏彦
 文西 上田 知子
 文仏 田中 智春
 文仏 吉村 雅史
 1988年(昭和63年)
 文英 石川 寛
 文英 太田垣 智子
 文英 中尾 春香
 文英 石川 千倉
 文英 山本 哲也
 文英 平郡 直也
 文西 安曾田 眞由美
 文仏 本田 哲也
 文仏 三田 伸子
 文仏 篠原 美佳
 1989年(平成元年)
 文神 神沼 まみ
 文神 武田 ミエ子
 文英 田中 僚子
 文仏 米田 弘
 1990年(平成2年)
 文英 江島 大介
 文英 岩切 丈士
 文英 和田 広幸
 文仏 白井 ひろみ
 1991年(平成3年)
 文英 宮先 広行
 文英 重浦 英子
 文西 清水 由利
 文西 奈須 督勝
 文仏 松本 美幸
 文仏 竹山 良一
 1992年(平成4年)
 文英 宮川 麻美
 文英 山端 秀樹
 文英 前中 正彦
 1993年(平成5年)
 文神 服部 靖
 文英 笹岡 美穂
 文英 波多 力登
 文英 長松 和彦
 文英 田中 直樹
 文英 前中 久美子
 文西 杉谷 泰子
 文仏 大月 力
 1994年(平成6年)
 文神 阿野 育美
 文英 大上 泰弘
 文英 中村 元子

文英 大西 由記
 文西 勝部 泰博
 文西 津田 利秋
 文仏 藤田 貴子
 文仏 内田 尚希
 1995年(平成7年)
 文神 青木 理恵
 文神 今津 巖
 文英 東 千保
 文英 黒田 百合子
 文英 佐田 智美
 文英 龍美 薫
 文英 奥 典子
 文英 谷川 暁子
 文英 前川 朋子
 文英 岸田 哲徳
 文西 一文字 秀行
 文西 坂口 裕子
 文西 山口 俊明
 1996年(平成8年)
 文神 石田 梯吾郎
 文英 撫養 麻砂美
 文英 岡林 広晃
 文西 六人部 浩
 文西 和田 美貴子
 文仏 古林 麻美
 文仏 百々 加代子
 文仏 山本 晃宏

終身会費・年会費を納入頂きありがとうございます。
 今回の会報は同窓会全員にお送りさせていただいておりますが、将来は年会費、終身会費をお納めいただいた方のみの発送となる予定です。
 同窓会活動も近年充実してきました。会員名簿のメンテナンスや、4年後の改訂版発行費用。ホームカミングデーの開催など、予定された事業計画を推進するため、さらに活動を活性化させるためには予算がどうしても必要となります。
 会員各位の同窓会活動の一層のご理解と、ご支援、確実な年会費納入をお願いいたします。

1997年度 学生募集要項

公募推薦入試		
	A方式	B方式
試験科目	調査書、小論文、面接	調査書、書類審査、面接
願書受付	1996年11月1日(金)～11月14日(木)	
試験日	英語英文科 1996年11月22日(金)	国神西仏 1996年11月21日(木)
合格発表	1996年11月28日(木)	

		前期入試	後期入試
試験科目	外国語、国語		
願書受付	1997年1月6日～22日		1997年2月24日～3月10日
試験日	国神西仏	1997年2月3日	1997年3月14日
	英	1997年2月4日	1997年3月17日
合格発表	1997年2月10日		1997年3月22日

詳しくは入試広報にお問い合わせ下さい。06-491-5100

新刊（自費出版）紹介

英知大学人間学研究室「兵庫・生と死を考える会」発行

「生きる—大震災を体験しあらためて生と死を考える—」

（編集委員長 須澤 晃）

一瞬にしてあの被害と多くの犠牲者をだした「阪神淡路大震災」から一年半が過ぎ、はつはつ人々の記憶からは、消え去ろうとしている今日です。特に被災地の体験者でなければ一層のことです。しかしながら、被災地では、むしろ今日になって、心的外傷後のストレス障害PTSD（Post Traumatic Stress Disorder）が、数多く発生し、家庭生活内、教育現場や企業社会において大きな問題となっています。今だかつてないほどの大きな衝撃であり、日本においては未経験のものがあまりに多くその解決策は、手探りな状況であります。従来「死」について深く考えることは、暗いものの考えかたで健康な時に考えるものではないと、タブー視してきたのではないのでしょうか。しかしながら、「死」について考えることは、すなわち「生」について考えることであり、素晴らしく生きるために必要なことなのです。

地震は、突然襲い、雷よりも火事よりも、もちろん、おやじよりも恐ろしいものです。その障害は“心的”と捉えるよりも、むしろその人の“生態を覆すほどのもの”と考えるほうが正しいのではないのでしょうか。したがって、直後よりもその緊張と恐怖が溶け始めた1年後さらには数年後に、大きな障害となって現れるようです。大震災1年目を経て、被災者がどのように苦しみ悩み今日を生きているか、又各分野の専門家はどのようにこの現象を見、問題として取り上げているかを追い求めました。

英知大学人間学研究室に本部をおく「兵庫・生と死を考える会」では、この体験とその時その後の心の記録を残すべく編纂にあたりました。約1年後の今日に、ようやく完成しました。ご関係各位には、ご協力に感謝し心から御礼申し上げます。有難うございました。

この会の活動と本書のことは、今年4月18日NHK「クローズアップ現代」で、“心の傷をどう癒すか”と取り上げられ、多くの反響を呼びました。また7月2日の朝日新聞（東京版）では、「震災で傷ついた心、その

後は“兵庫生と死を考える会が体験記出版」と掲載され、多くの電話やお手紙によるお問い合わせをいただきました。

「生きる」は、A5版・374頁からなり、第一部では29名の方々の被災体験記を掲載、その悲嘆と喪失のなかで、その時とその後をどのように生きておられるかを表現し、第二部では“被災を見る22名の専門家の目”と題してご投稿をいただきました。いずれも、貴重な記録であり資料・報告でもあります。

つきましては、みなさまに是非ご一読いただきたく、ご紹介いたしました。詳細は、下記のとおりです。なお、自費出版につき、なにかとご不便をおかけいたしますが、事情ご賢察いただき、ご了解のほどお願いいたします。

記

頒布価格：1冊 2,000円

送料（宅配便料金および梱包代など）は、

1～5冊800円・6～10冊1,000円です。

（これ以上の場合は、下記へお問い合わせください。）

なお、代金の支払いについては、下記のとおりです。

【郵便振込】口座番号 01100-0-39782

「兵庫・生と死を考える会」宛

※通信欄に、お求めの冊数をご記入ください。

【現金書留】住所・氏名・電話・冊数をご同封のうえ、下記までご送付ください。

〒661 尼崎市若王寺二丁目18番1号

英知大学 就職部就職課 須澤 晃

(Internet: E-mail: akisuza@gol.com)

TEL&FAX (06) 491-7169

英知大学 人間学研究室

「兵庫・生と死を考える会」事務局

TEL&FAX (06) 492-9826



大学院だより

吉岡 直紀

本学（もちろん、英知大学のこと）の大学院に入学して、早、4カ月。誰もが言うことだけれど、月日の経つのはまったく早いものだ。なのに、私ときたら、いまだ自分の所属する学科を言えないでいる。まったく呆れたものである。

私の傍らにある学生証によると、現在の私の肩書きは人文科学研究科、英語学英米文学専攻であるらしい。こんなに長いことから、覚えられなくても仕方がない。自分で開き直っても、本当に仕方がないのだが、こんなことを覚える暇があるのなら、いっそ、勉学に勤しんだ方がずっといいに決まっている。皆もそう思っているにちがいない。実際、自分の肩書を正確に言える者など、この大学院にはいないだろう。中身があってこそ肩書というものは光ってくるのだから。

現在、英語学英米文学科には14名（私の記憶が正しければ、これに聴講生を含めれば16名）が在籍している。この14名、皆、一生懸命、勉学に精を出している。自分を褒めると心臓だと思われるので、13名ということにしておくが、授業時間は先生方の仰ることを一言たりとも聞き漏らすまいと静かに耳を傾け、休憩時間には豊かな蘊蓄をもって文学論に花を咲かせている。

また、夏期休校と言えども、時間を弄んではない。自主的に先生方をお願いして、勉強会を開いてもらう者も大勢いるのだ。私が知っているかぎりでは、この夏、少なくとも3つの勉強会が開かれたはずである。

学生たちの積極さもさることながら、先生方の奉仕の精神も敬服するに値するところである。前述した勉強会も、苦い顔などせず、快く引き受けてくださるし、また、自習室にOxford English Dictionary、広辞苑をはじめ、たくさんの書籍を貸与してくださった先生もおられるのだ。このような先生方のお心遣いを考慮に入れると、我々、大学院生は本当に恵まれた環境にあると思う。

恵まれた環境と言えば、我々、大学院生には他にも特権がある。その特権というのは図書館の利用に関してで

あるが、なんと我々は15冊もの書籍の貸し出しが3ヶ月間も許されているのである。これは驚くべき数値である。というのは、この数値は、大学の学生の条件とくらべると、冊数、期間ともに3倍に及ぶからである。

私自身はどうかと言えば、調べものに迫られる毎日である。14名という人数は大学院にしては多いと思うのだが、どの講座もびったり14名ということはもちろんなく（ある講座など2名しか登録していないので、ほとんど家庭教師並みのサービスである）、思いのほか頻繁に発表の順番がまわってくる。しかも私のような無知な者はかなり前から時間をかけて準備をしておかねばならないので、発表が終わったと思ったら、また次の発表が待っているのである。

更に悪いことには、私には完全主義者みたいなところがあって、やるとなれば徹底的にやらねば気が済まないのである。自習室は午後6時まで使用できるのであるが、それ以降まで残っていて守衛の方に迷惑をかけることもしばしばあるし、ある作品でチョコレートが取り上げられると時代背景を掴むために尼崎付近にある某M製菓の工場まで質問しに行ったことさえあった。もちろん志はそうであっても、現実はそのはいかない。苦勞の甲斐なく、発表のときになると、頓珍漢なことばかり言って赤っ恥をかくことの方がずっと多い。また苦勞した分だけ、一層、挫折感が骨身にしみるのである。

おそらく、こんなにつまずきまくっているのは私だけであろうが、皆も一生懸命に頑張っている。皆、知識にたいして食欲なのだ。本大学院の歴史は始まったばかりだが、こういった食欲こそ伝統にしていきたいものである。

原稿募集

同窓会では同窓会会報に記載する原稿を募集しております。学園の情報以外にも、卒業生の活躍している姿や、詩、随筆、クイズ、パズルなどお気軽に原稿をお寄せ下さい。

また、同窓会報に記載して欲しい項目などのご意見もお待ちしております。

同窓会会報は単なる機関誌ではなく、同窓生が楽しめるようなものになりたいと考えております。

皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

卒業生便り

西文科 91年度卒業 信用金庫勤務 新山拓也

「思考の実現」

信用金庫に就職して、6年目になりますが、仕事にたいして飽きることもなく毎日がとても新鮮です。仕事の内容は、経済活動の流れに顧客がスムーズに推移していくよう潤滑油となり、また、人生の勝負時点において迎合することもなく的確に捕らえ、アドバイスとバックアップをさせて戴き顧客に満足され飛躍して戴くことが、私の仕事であり責任であります。それ故、無知ほど恐いものではなく、常に金融、税金、法律、政治、経済、経営等の諸々の知識が必要とされます。実際、私も週2、3回は書店へ足を運び、土日の一方は図書館で1日中時間と潰すようにしています。

私の担当は営業で業績を伸ばす責任もありますが、「目標は達成されて当然であり、目標の2倍はできる人間である」と自分自身に断言して行動しています。すると自ずと成果の上がる原因と、下がる原因が見えてきます。要は人間その気になることで、「その気」になれば

ほとんどのことは可能であります。しかし、数字だけに心を奪われ、数字のためだけに仕事を進めるのは、本来の目的から逸脱してしまうので、自分の中で、数字は2割、後の8割は互いの価値観のぶつかり合いの組織では、和が大切であり、相手の立場で物事を考える点に重点をおいています。

サラリーマンとて夢があり、旧態依然のまま過ごすのではなくプロ根性が必要で、基礎を固め地道な努力を普段から心掛け、10年20年30年後の夢をより具体的にイメージし、夢に継続性を持たせ行動していると、今することが端的に理解でき生活のリズムも好転し、不思議と周囲にも活力のある人々が集まり人生の幅も広がります。

就職して5年間は、計画通りすぎました。今後もより一層前向きに貧欲に、向上心と創造力を持ち、例えば、組織で部長を目指せば、課長で終わる可能性もあり、ならば私は頂点を目指す気持ちで仕事に取り組み、生意気かも知れませんが感謝の気持ちを忘れず、顧客や後生に勇気と感動を与えられる社会人であり、かつ人間でありたいと思います。

各種「講座」開講する！
卒業生の参加もできます！ 只今受付中！

[英語ブラッシュアップ講座]

ブラッシュアップ専門講師による講座

TOEIC 100点アップを目指す！

☆本年4月より開講。すでに卒業生も参加！

☆6ヶ月に、40コマ、クラス別集中講座。

☆民間企業のブラッシュアップ専門講師により少人数指導。

☆期間：'96年10月12日～'97年3月8日

毎土曜日・午前9時30分～12時45分

☆受講料：39,800円

☆申込み締切：10月31日(木)午後6時

☆なお、クラス分けは本学で実施のTOEICの結果でランク分けをしますが、本「会報」到着の都合上、過去のTOEIC結果を基にご相談のうえ、決定をいたします。

☆詳しくは、就職課まで至急お問い合わせください。

近日「公務員」「宅建」「一般旅行」講座も同時開始！

英知大学就職部就職課

TEL & FAX (06) 491-7169

Internet・E-mail: akisuza@gol.com

著書紹介

「聖パウロ = その心の遍歴 =」

英知大学教授 和田幹男 著

1996年6月 女子パウロ会発行 3,000円

キリストの心を心とするまでに

パウロの歩まねばならなかった長い道

— 迫害者から一転してキリストの熱愛者へ —

「聖パウロを学ぶ意義

新約聖書を読むためにも、発足した当時のキリスト教を知るためにも、パウロを学ぶ意義の重要性は、いくら強調しても強調しすぎることはない。新約聖書を開けば、二十七書のうちパウロの手紙といわれるものが十三も含まれている。この手紙をいきなり読んで理解する人もいるかもしれないが、一般的には予備知識なしにそうはいかない。やはり、パウロという人物がいつ、いかなる環境で生まれ、育ち、どういう考えをもって何をおこなったのか、その概要を知っておく必要がある。これを知っていれば、その手紙のメッセージを読みとる手がかりとなる。このようにパウロを学ぶことは、新約聖書の大きな部分を理解することにつながる。」

(著書の「はじめに」より抜粋)

関東支部便り

去る、6月22日に行いました「第6回関東支部総会」にて支部役員の改選を行い、満場一致で承認されました。

役員は以下のとおりです。

支 部 長	永森孝夫	仏文	78年卒
副 支 部 長	伊藤久司	英文	71年卒
副 支 部 長	木下賢一	英文	88年卒
書 記	中出正子	西文	85年卒
会 計	澤田夕生	西文	85年卒
支 部 ニ ュ ース	碓 順治	西文	71年卒
情報ネットワーク	田中マサ子	英文	71年卒
本 部 連 絡	和田 隆	西文	80年卒
常 任 委 員	中村和徳	西文	71年卒
常 任 委 員	相原祥子	英文	87年卒
支部代表本部委員	稲田新平	英文	70年卒

以前より中村前支部長の考える関東支部のより一層の活動の活発化の一環として支部役員の若返りを提案して過日の支部総会にて承認されました。支部会員及び前役員が期待する程の結果が出せるかどうか解りませんが、新役員一同、関東支部発展のために精一杯努力したいと考えております。

ご存知のように卒業生のほとんどが関西及びその周辺の出身のため、関東には縁がないと思っていたにも拘わらず、結婚や就職・転勤等で関東に来てしまったというのがほとんどではないかと思えます。その時いくら情報化社会だとは言っても、どこに住むのが良いのか？子供の学校はどこにしようか？おいしいレストランはどこにあるのか？等、軽重種々の問題に直面します。そういう方々が少しでも自分の希望を叶えられるよう、援助するのが支部の役目だと思っています。また、縁あって同じ関東に住んでいるのだから、何か楽しく、役に立つ情報を共有したいと考え各会員にアンケートを実施し、情報ネットワークを作成し、各会員に配付し、役立てて頂きたいと考えています。これから1年よろしく願い致します。

関東支部 永森孝夫

クラブ紹介

西語研究会は、昨年で創部30年を迎え、日々活動にはげんでおります。活動内容は主に文法及び会話を中心に行い、又スペインの文化等にも少しずつ手をのばしています。

まず5月にスペイン語に慣れてもらう意味での校内暗誦大会を毎年行っています。又、秋にはイスパニア語劇を行い、それを通じてスペインの文化、習慣等を学びます。校内だけではなく、他大学との交流も盛んに行っており、関西学生イスパニア語連盟（英知大学・関西外大・京都外大・天理大）に所属しており、共に活動し、実力向上を目指しています。連盟で開催される暗誦大会や語劇コンクールにも参加しており昨年のコンクールでは特別賞を受賞しました。

他には京都外大・天理大主催の弁論大会にも精力的に参加し、一昨年には京都外大弁論大会では審査員特別賞をいただきました。

今年は創部以来お世話になったアルバレス先生がお亡くなりになり、いろいろ大変なスタートでしたが、今まで以上に精力的に活動していきますので今後ともご支援いただきますようよろしくお願い致します。

(1995年度に原稿を寄せて頂きました。)

編集後記

同窓会会報も6号を数えるに至りました。昨年、一昨年と同窓会総会で会報の記事内容の充実させるとの目標を掲げておきながら、今一つ大きく変化させることが出来なままです。

それでも、多くの方々のご協力と、寄稿により、同窓会からの一方的な活動報告ばかりではなく、学園の現在をお伝えできているのではないかと考えています。

これからはこの会報をもう少し発展させ、遊び心も織りまぜて、楽しくお読みいただけるような物にしたいと計画中です。

ご期待いただくと共に、より一層のご協力をお願いいたします。

編集作業に協力していただける方も大歓迎です。新たなメンバーのご参加を期待しております。

英知大学同窓会 総務委員会

大月 力

中村智恵美